

11月30日(月)

## 世の光に

聖書朗読 ガラテヤ 5:16~24

イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」 ヨハネ 8:12

私が子どもだった時、ディズニーの『ポリアンナ』と言う映画のワンシーンに魅了されました。そのシーンとは気難しいおじいさんの家で、主人公のヘイリー・ミルズが太陽光とプリズムを使って、虹を作るシーンです。

10代でクリスチャンになったばかりの頃、御霊の実について学んでいる際に、実の絵を描くように言われました。私は、神様の光が差し込むプリズムを描きました。プリズムの向こう側には、虹の色が全て出てきて、私はそれらを愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、そして自制と名付けました。

先生は「(御霊の実の対極である) 罪に支配された肉の思いを描きなさい」とは言いませんでした。しかし、もし描くように言われていたら、私は牢屋のような、太陽光が射し込まない小さい部屋を描いたと思います。そして「肉の思いという闇」との作品名を付けたことでしょう。

私たちは、神の光を受けるプリズムのような存在です。神様の光をより豊かに浴びることが出来るよう、神様に私たち自身を日々内側から変えて頂きましょう。イエス様はマタイ5:14で「あなたがたは世の光です」と言っておられます。クリスチャンであることは隠すべきことではなく、オープンにして、世の光として歩むべきです。

私たちが(霊的な意味で) 罪の囚人となっている時、私たちの心は神様に対し閉ざされています。そして御霊により内から変えられることを難しくしてしまいます。しかし、私たちが神に対し心を開き、御霊によって歩むのであれば、罪の力から私たちは解放されます。

神様は私たちを愛して下さっています。その愛を反射させて、世の光となりましょう！

讃美歌 533

祈り 神様、いつも私たちを愛して下さい、ありがとうございます。その愛を分かち合い、世の光となれるようお導き下さい。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

マーシャ・ダウエル  
テキサス州ヘロテス

## 今日の花

2020年11月30日~12月6日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

12月1日(火)

## 神様の愛

聖書朗読 エペソ 3:14~19

父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。ヨハネ 15:9

朝起きた時に、歌が心に浮かんだことはありますか？ もしそうなら、あなたは本当に祝福されています。そして、その歌を覚えておいて、昼間思い出せるのなら、更にダブルで祝福されていると言えるでしょう。歌が浮かぶとは、神様から与えられた才能です！ 隠すことなく歌いましょう！

イエス様の愛について毎日瞑想することは、歌が心に浮かぶような体験とも言えましょう。良い歌が私たちの心を潤すように、「人知をはるかに超えたキリストの愛」に私たちが思いを寄せる時、私たちもよりイエス様をより深く愛することができるのです。イエス様の愛が私たちの内に宿ることにより、私たちは（聖書が教える）真理を知り、またその素晴らしさも理解するようになります。そして、私たち自身に目を向けるのではなく、イエス様に目を向けることができます。また、霊的な勇気を与えられ、誘惑から遠ざかる賢さを手に入れることができるでしょう。さらに、どんな時でも希望を見出す心の目を養うことが出来るようになります。そのような祝福を味わうと、私は、心から賛美の歌を歌いたくなります！

かつて私はこの世の喜びを切望し、平和と休息を求めました。

今、私が求めているのはあなただけです。

これが私のすべての祈りです：愛をもっと、キリストよ、

あなたへのより多くの愛、

あなたへのより多くの愛！

-E. プレンティス

讃美歌 321

祈り 親愛なるお父様、いつもイエス様の愛を常に心に留めておけるようお導き下さい。あなたは、私が人生の悩みや恐れを乗り越えられるよう導いて下さり、御国での永遠のいのちへと安全に導いて下さると完全に確信しています。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

トラビス・アラン

コロラド州センテニアル

12月2日(水)

## 永遠の家

聖書朗読 ヘブル 11:1~13

しかし、事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼の神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました。ヘブル 11:16

最近、主人と共にニューヨークにある（移民の歴史を知ることが出来る）テネメント博物館へ行きました。より良い生活を求めてアメリカに移住した人々の話を聞いて、私たちは衝撃を受けました。移住者たちは、アメリカ移住直後は、人口密度が高く衛生環境も良くない地域で暮らしていました。しかし、彼らは一生懸命働いて、いつか（移民の地域から離れて）郊外に自分の家を建てること夢見ていました。

この話を聞いた時、私はヘブル11章に記されている信仰のヒーローたちのことを思い出しました。16節では「しかし、事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼の神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました」と記されています。

この地上での生活で、どのような種類の家に住んでいようとも、それはあくまでも一時的な家に過ぎません。もっと良いものを求めた移民たちのように、私たちももっと良いものを求めます。それは御国での生活です。それを、イエス様は私たちのために用意して下さっているのです。来る日のために、私たちも準備万端におきましょう。

讃美歌 488

祈り 神様、あくまでもこの地上での生活は一時的なものであり、御国を準備して下さっていることに感謝いたします。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ローズマリー・マクナイト  
テネシー州ヘンダーソン

12月3日 (木)

## 忍 耐 の レ ー ス

聖書朗読 ヘブル 12:1~3

こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。

ヘブル 12:1

長距離のレースは忍耐力を必要とします。マラソンをする人は精神的にも、忍耐的にもゴールに辿り着けるよう、準備をするのではないのでしょうか。この準備は重要で、自制を伴います。より快適に走るためには出来るだけ身軽なほうが良いですから、無駄に重い服装で走る人はいないと思います。そして、靴も走るのに最適なランニングシューズを選ぶでしょう。最善を尽くして準備をし、ゴールに辿り着けることを目指すでしょう。たとえコースが難しくても、諦めることはしないでしょう。

私たちの孫の男の子は、この夏、ウルトラマラソン (42.195kmを越える道のりを走るマラソン) を走りました。コロラドの山道を150km以上も走りました。何と大変だったかと思います。彼の父親がサポートとして、共に走りました。励まして、走り抜けることが出来るよう的確なアドバイスを与えました。その甲斐もあり、孫は無事レースを終えることが出来ました。

私たちも、クリスチャンとして霊的レースを走っているのです。それは神様との歩みのレースです。本日の聖書朗読箇所でも、忍耐を持って走り続けることについて記されています。イエス様の犠牲により、私たちは罪という重荷を捨てて、身軽に走ることが出来るのです。私たちの足は、福音に包まれています。包まれて、守られていることにより神様の御許へと走り続けることが出来るでしょう。また信仰によって、私たちはイエス様に目を向けます。既にレースを終えて (御国にいる) 先輩クリスチャンたちが、私たちのゴールイン・信仰の勝利のために応援してくれているのです。

クリスチャンの皆さん、「あなたがたも賞を得られるように走りなさい」(I コリント9:24)。

聖歌 638

祈り 天に居られるお父様、日々霊的なレースを走っていることを思い起こさせて下さい。最終的なゴールである御国へ行ける日まで、ゴールを見失うことなく走り続けられるよう、お導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

キャロル・ローズ  
コロラド州プエブロ

12月4日 (金)

## 主 に あ る 謙 虚 さ

聖書朗読 ヘブル 13:1~19

善を行うことと、持ち物を人にわけることを怠ってはいけません。神はこのようないけにえを喜ばれるからです。

ヘブル 13:16

私は大学を卒業し新卒で、伝道者として働き始めました。今思えば自信過剰だったと思いますが、自分は全てのことを知っていると思っていたのです。しかし、とある夜の奉仕の後、忘れたい経験をしました。それは、私が教会のポーチで、教会学校の子供たちとおしゃべりをしていた時のことです。私は、子供たちの親が迎えに来るまで、子供たちとおしゃべりをしながら待っていました。次々と親が迎えに来て子どもはみな帰宅し、私が最後の一人となりました。当時私は、実家から遥かかゝた4,800キロも離れたところで一人暮らしをしていました。そして、どうしようもない寂しさを、その時覚えました。

寂しい心持ちのまま、私は自分の車の方へと歩いていきました。すると、誰かが居ることに気が付きました。その人はお年寄りの女性で、以前にも挨拶はしたことはありましたが、決して親しいとまでは言えないお年寄りでした。彼女は、私に何か用があるよう見受けられました。「どうかありませんか」と私は尋ねました。私は彼女が何か困っているのだらうと思い、そう尋ねたのですが、彼女は「いいえ」と答え、「私は、少しでもあなたの力になりたいの」とおっしゃいました。そして、私に、何枚かの1ドル札を手渡しました。私は突然のことにびっくりして、思わず「結構です！ 頂けません！」とお断りしました。

月明りしかないくらい駐車場でしたが、私は彼女の涙に気が付きました。「このお金はね、神様に喜ばれる仕方で使いたい。(神に奉仕をしている) あなたに差し上げることは、神様にも喜んで頂けると思うから、あなたに差し上げたいのよ。この気持ちをどうか分かって」と、女性は謙虚に懇願しました。私はその時すぐには理解出来なかったのですが、とても貴重なことを学びました。それは、他者へ真心を込めた配慮を、感謝をもって受け取ることの大切さです。女性は、神様の愛と謙虚さを込めて、私を気遣って下さったのです。彼女が実践した謙虚さは、忘れることの出来ない、私にとっての大切な模範となっています。

讃美歌 332

祈り 神様、いつも愛を持って生きることが出来ますように。  
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

マークR・ガイ  
オハイオ州ウエストキャロルトン

12月5日(土)

## 聖霊によって強められた弟子たち

聖書朗読 Iペテロ 1:3~9

私があなたがたに最もたいせつなことから伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと・・・  
Iコリント 15:3

かつて、主イエスの弟子たちは、主の教えを聞いても、深くは理解していませんでした。しかし、ペンテコステの日の出来事は、弟子たちを変えました。聖霊が降り、弟子たちに臨むと、彼らは(主の弟子として)心が照らされ、主にある理解力・判断力が与えられたのです。

Iペテロ1:3で、「イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちが新しく生まれさせ、生ける望みを持たせてくださいました」とペテロは記しています。福音の核となる、イエス様の死、埋葬、そして復活の意味について、ペテロをはじめ弟子たちは深く理解することが出来、福音を大胆に伝えていくことが出来るようになったのです。

ペンテコステの日の出来事は、福音が伝えられていく上で、とても大切な日となりました。福音宣教の始まりの日とも言えましょう。使徒たちは神様の御言葉を伝える管(くだ)であり、御霊が弟子たちを力強く語らしめました。私たちも、周りの(ノンクリスチャンの)方々から「救われるためには、どうしたらよいでしょうか」と質問された時、福音を伝えることが出来るよう、聖霊によって自分自身を整えて頂き、強めて頂きましょう。

讃美歌 352

祈り 親愛なるお父様、聖霊様がいつも共に居て下さることに感謝します。御国の素晴らしい知らせを分かち合えるようお導き下さい。  
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

W・スコット・ウッドリー  
テネシー州キングストン

12月6日(日)

## 恐怖を覚える時

聖書朗読 Iペテロ 3:8~17

マケドニアに着いたとき、私たちの身には少しの安らぎもなく、さまざまな苦しみに会って、外には戦い、うちには恐れがありました。 IIコリント 7:5

年初からの新型コロナウイルス感染症拡大により、私たちは恐怖を覚えています。この問題にどう対応するべきかの意見も分かれ、意見の対立も生じています。恐怖は多くの人を自己中心的にさせ、トイレトペーパー、マスク、消毒液などあらゆるものを巡って争いも生じました。恐怖心により、社会では混乱が生じています。信仰深いクリスチャンでさえ、恐れを感情を抱いている人は大勢いらっしゃいます。

この恐怖心は誰もが感じることです。あの偉大な伝道者であるパウロでさえも、恐怖を感じることもありました。(私たちと具体的状況は異なるとは言え)パウロも、私たちと同じように恐怖を感じるがあったのです。しかし、恐怖を感じる状況下であろうと、パウロは説教をし続け、人々を励まし、そして自分がすべきことを大切にしていました。彼は、コリント人への手紙の中で、救い主について記しました。また、テサロニケ人への手紙では、迫害と恐れに苦しんでいる人々に励ましの言葉を書き送りました。

パウロは、(自分に降りかかる問題だけではなく)御言葉にこそ心の目を向け、御言葉を宣べ伝えることに忙しくしていました。そして、恐れによって振り回されなかったのだと言えましょう。もし、私たちが恐れにより圧倒されそうな時は、パウロのように、御言葉にこそ耳を傾け、問題だけに心奪われることなく、歩んでいきたいものです。

讃美歌 520

祈り 天に居られるお父様、恐怖心に支配されずに、あなたがいつも共にいて下さることを思い起こさせて下さい。  
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

M・バスキン  
テキサス州サンアントニオ